

第4章 環境への配慮行動

第1節 市民が行う環境への配慮行動について

ここまでに記載した内容を含みますが、以下の行動を通じて、市民一人一人が環境に優しい生活を心掛けることで、地球環境の保全に寄与できます。

1 エネルギーの節約・効率化

1 省エネ家電の利用

- ☐ エネルギー消費の少ない家電製品を選ぶ。
- ☐ エコマークやエネルギー消費効率ラベルを確認する。

2 LED照明の利用

- ☐ 省エネ効果の高いLED電球を使用する。
- ☐ 長寿命であり、頻繁に交換の必要がない。

3 エアコンの温度設定

- ☐ 適切な温度設定を心掛ける。
- ☐ エアコンのフィルター掃除を定期的に行う。

2 リサイクル

1 分別収集

- ☐ ゴミを正しく分別し、リサイクルに協力する。
- ☐ 地域の分別ルールを確認し、遵守する。

2 リユース

- ☐ 使用済みの物品を再利用する。
- ☐ 古着や中古品を購入し、物の寿命を延ばす。

3 リサイクル製品の利用

- ☐ リサイクルされた製品を購入する。
- ☐ リサイクル製品の品質や安全性を確認する。

3 エコライフ

1 エコバッグの利用

- ☐ レジ袋の代わりにエコバッグを使用する。
- ☐ エコバッグを常に持ち歩き、忘れずに利用する。

2 自転車・公共交通機関の利用

- ☐ 自動車の使用を減らし、公共交通機関や自転車を利用する。
- ☐ 歩くこともエコフレンドリーな移動手段であり、健康にも良い。

3 地産地消

- ☐ 地元で生産された食品を購入する。
- ☐ 地元産品の購入により、地域経済も支援される。

4 水の節約

1 節水

- ☐ 水道水の無駄遣いを避け、節水を心掛ける。
- ☐ シャワーの時間を短縮し、水を流しっぱなしにしない。
- ☐ 洗濯機の水位設定を適切にする。

2 雨水の利用

- ☐ 雨水を集めて植物の水やりに利用する。
- ☐ 雨水タンクやバケツを利用して雨水を貯める。

5 自然保護

1 植樹活動

- ☐ 植樹を行い、森林を守る。
- ☐ 地元の植樹イベントに参加する。

2 野生動植物の保護

- ☐ 絶滅危惧種の保護活動に参加する。
- ☐ 野生動植物の生息地を守り、生態系のバランスを保つ。
- ☐ 野生動植物の観察を通じて、自然に対する理解を深める。

6 環境教育

1 環境教育の受講

- ☐ 環境に関する知識を深めるための教育を受ける。
- ☐ 環境教育を通じて、持続可能な生活の重要性を学ぶ。
- ☐ 子供たちに環境教育を施し、次世代に環境意識を育む。

2 環境啓発活動

- ☐ 環境保護の意識を高めるための活動に参加する。
- ☐ 啓発活動を通じて、地域社会の環境意識の向上を図る。
- ☐ SNS やブログで環境保護の情報を発信する。

第2節 事業者が行う環境への配慮行動について

ここまでに記載した内容を含みますが、以下の取り組みを通じて、事業者は環境問題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現に向けて努力することが期待されます。

1 エネルギーの節約・効率化

1 省エネ設備の導入

- ☐ エネルギー効率の良い設備や機器を導入し、エネルギー消費を削減する。
- ☐ エネルギーの使用状況をモニタリングし、最適化を図る。
- ☐ 従業員へのエネルギー節約の教育と意識向上を図る。

2 再生可能エネルギーの利用

- ☐ 太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを利用する。
- ☐ エネルギー供給の安定性とコスト削減を考慮し、適切なエネルギーミックスを構築する。
- ☐ 再生可能エネルギーの導入により、企業イメージの向上を図る。

3 エネルギーマネジメントシステムの導入

- ☐ エネルギーの使用状況を管理し、無駄なエネルギー消費を削減する。
- ☐ エネルギー効率の向上を目指し、定期的な改善活動を行う。
- ☐ エネルギー使用量の透明性を確保し、ステークホルダーへの報告を行う。

2 廃棄物の削減・リサイクル

1 ゼロウェイストの推進

- ☐ 廃棄物の削減を目指し、リサイクルや再利用を推進する。
- ☐ 従業員に対してゼロウェイストの意識を高める教育を行う。
- ☐ サプライチェーン全体での廃棄物削減を目指し、パートナー企業との協力を強化する。

2 エコパッケージの導入

- ☐ 環境に優しい包装材を使用し、プラスチック廃棄物を削減する。
- ☐ 消費者へのエコパッケージのメリットの啓発を行う。
- ☐ 包装材のリサイクルシステムの構築と普及を図る。

3 リサイクルシステムの構築

- ☐ 使用済み製品の回収とリサイクルを行うシステムを構築する。
- ☐ リサイクル率の向上を目指し、新たなリサイクル技術の開発と導入を行う。
- ☐ リサイクル製品の品質向上と市場拡大を図る。

3 環境保全活動

1 CSR活動の推進

- ☐ 企業の社会的責任を果たすため、環境保全活動や社会貢献活動を行う。
- ☐ ステークホルダーとのコミュニケーションを強化し、CSR活動の方向性を共有する。
- ☐ CSR活動の成果を定期的に評価し、改善を図る。

2 生物多様性の保全

- ☐ 事業活動による生態系への影響を最小限に抑え、生物多様性の保全に努める。
- ☐ 生態系サービスの価値を理解し、ビジネスモデルに組み込む。
- ☐ 地域社会と協力し、生物多様性保全プロジェクトを推進する。

3 環境教育の提供

- ☐ 従業員や地域社会に対して環境教育を提供し、環境意識の向上を図る。
- ☐ 環境教育プログラムを開発し、多様な学習機会を提供する。
- ☐ 環境教育の成果を評価し、プログラムの改善を行う。

4 サプライチェーンの環境管理

1 グリーン調達

- ☐ サプライチェーン全体での環境配慮を図るため、環境に優しい製品やサービスを優先的に調達する。
- ☐ グリーン調達の基準を設定し、サプライヤーに遵守を求める。
- ☐ グリーン調達の実施状況をモニタリングし、改善を図る。

2 サプライヤーへの環境要求

- ☐ サプライヤーに対して環境保全の取り組みを要求し、共に環境問題の解決を目指す。
- ☐ サプライヤーの環境パフォーマンスを評価し、フィードバックを提供する。
- ☐ サプライヤーとの協力関係を強化し、環境保全活動の共同推進を図る。

3 ライフサイクルアセスメント（LCA）の実施

- ☐ 製品のライフサイクル全体での環境影響を評価し、環境負荷の削減を図る。
- ☐ LCAの結果を基に、製品設計の改善を行う。
- ☐ LCAの結果を公開し、ステークホルダーとの対話を深める。

5 持続可能な経営

1 持続可能な経営方針の策定

- ☐ 環境、社会、ガバナンス（ESG）を考慮した持続可能な経営方針を策定する。
- ☐ 持続可能な経営を組織文化とし、全従業員の意識と行動の変革を図る。
- ☐ 持続可能な経営の実践を通じて、企業価値の向上を目指す。

2 環境リスク管理

- ☐ 事業活動における環境リスクを評価し、適切に管理する。
- ☐ 環境リスクに対する対策を策定し、実施する。
- ☐ 環境リスクの管理状況を定期的に見直し、改善を図る。

3 環境報告書の公表

- ☐ 企業の環境保全活動や環境パフォーマンスについての情報を公開する。
- ☐ 環境報告書の作成を通じて、企業の環境保全活動の進捗と成果を評価する。
- ☐ ステークホルダーからのフィードバックを受け、環境報告書の内容の改善を図る。